

ネパール・2015年ゴルカ地震への対応にみる重層的ローカリティ —カトマンドゥ盆地の事例から—

伊東さなえ（京都大学）

2015年4月25日、ネパール中部を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生した。本報告は、具体的な事例をもとに、この地震に対する人々の対応について考察するものである。その中でも特に、被災者による災害対応と、国外在住者たちの支援活動の中に現れたローカリティに着目する。ネパールでは、国民国家の形成と、先住民やカーストごとのアイデンティティ政治が隆盛する中で、近年盛んに帰属が論じられてきた [c.f. Pfaff-Czarnecka, et al. 2011]。一方で、震災以前から開発や地方自治制度の整備などの近代化の中で、場所や人に対する愛着と、その中のつながりは多様化しつつあった。人々は日々の実践の中から重層的な帰属対象としてのローカリティを生産 [Appadurai 1996] するようになっていたのである。

震災の発生により、ネパールの被災者たちは、清水 [2015] がフィリピンのピナトゥボ山の噴火について論じたのと同様、支援者に自分たちが何者なのかを説明し、また誰が誰を助けるのかについて表象する必要に駆られた。土地や人との関係性が強く意識され、新しい関係性も生まれた。シャキヤ [2015] は、「ネパール人たちは震災により帰属を問われた」と論じたが、ネパールで震災により明確になるとともに問いかれたのは、帰属というよりも、むしろ、人々が帰属意識を感じるローカリティであり、それをもとにしたつながりであった。それは、村や都市などの昔からの「近接」 [Appadurai 1996] だけでなく、近代化の中で登場した地方自治制度や開発に基づくものなどが重層する中で形成されたものであった。

本報告の主たる調査地では、被災した若者たちにより、仮設小屋の建設など多様な震災対応が行われた。活動の主たる資金源となったのは、国外在住者が立ち上げたクラウド・ファンディングだった。募金は多くが出稼ぎや留学などのために国外に在住する、お金を受け取って活動を実行していた若者たちが「友人」や「姉・兄」と呼ぶ関係性の人々から送られてきたものであった。国外在住の若者が書いたクラウド・ファンディングの紹介文では、昔からの「近接」の呼び名と、1997年に行政により創出された地方自治体の名称（行政市9地区）の双方が用いられた。ネパールでは、国民国家形成の中で、地方自治体の境界線が引かれた。それはしばしば、歴史的に形成されてきた村や都市などの「近接」を分断する形で引かれた。調査地でも同様であったが、紹介文では、「近接」の名称と地方自治体の名称の双方が併存して用いられていた。

キーワード ネパール、災害、帰属、ローカリティの生産、地震

被災地で活動した若者たちは、彼らのグループや活動を指して「9地区コミュニティ災害対策委員会」という行政により設置された各地区に付随する公的な組織の名前を用いて説明した。しかし、中心的な活動を担った若者も中には9地区在住でないものも多く含まれていた。また、「ドカシの男たち」という表現もなされた。ドカシというのは伝統的な地区、つまり「近接」の名称の一つである。中心的な活動を行ったのは、このドカシ地区にある喫茶店に、ほぼ毎日のように集まり、お茶を飲みながら語り合ってきたメンバーであるという説明もなされた。

ラージラ [Raj, et al. 2015] は、震災後の緊急期に被災者による活動が活発に生じた地域には、もともと地域のつながりがあったと分析している。しかし、地域とは何を指すのか、つながりとはどのようなものなのかについて十分な考察がなされていない。ネパールでは、都市化と人口の流動化の中で「近接」は震災以前から揺らいでいた。国民国家形成と、地方自治体による境界の設置により状況は複雑化してきた。その中で起きた地震に際し、人々は、多様なローカリティと、それに伴うイメージを駆使して、お金を集め、震災への対応を行った。本報告では、事例をもとに、都市化の進展の中で地域やつながりがどのようなものとなっていたのか、それが震災を契機にどのように変容しているのかについて、アパドウライ [1996] のローカリティの生産の議論を参照しつつ考察する。

Appadurai, Arjun. 1996. *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization*. Minnesota, USA: Public Worlds, University of Minnesota Press.

Shakya Mallika. 2015. *The Question of Locality in Rupture*. <https://culanth.org/fieldsights/732-the-question-of-locality-in-rupture> (2017Aug 29,).

清水展.2015.「先住民アエタの誕生と脱米軍基地の実現
—大噴火が生んだ新しい人間、新しい社会—」清水
展・木村周平編著『新しい人間、新しい社会—復興
の物語を再創造する—』京都大学学術出版会:17-50

Pfaff-Czarnecka, Joanna and Toffin, Gerard. 2011. *The Politics of Belonging in the Himalayas: Local Attachments and Boundary Dynamics*. New Delhi, India: Saga Publications.

Raj, Yogesh and Gautam, Bhaskar. 2015. *Courage in Chaos: Early Rescue and Relief after the April Earthquake*. Kathmandu, Nepal: Martin Chautari.